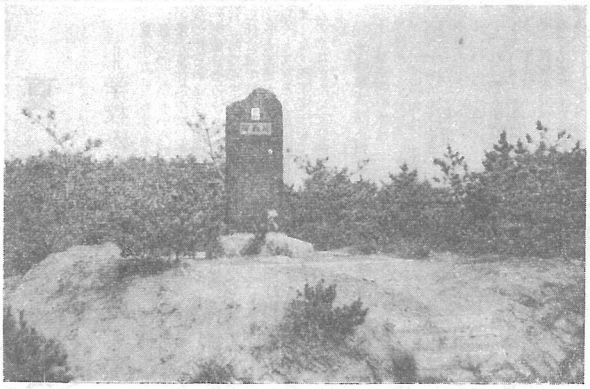
故白浜PTA会長市原幸次郎氏殉職碑々文

白浜PTA

流るる雲よ、打ち寄する波よ、しばしとどまりて聴け時昭和三十五年八月八日午後二時、木戸海岸に游泳中の学童突如大波に呑まる。折しも監視中の白浜PTA会長市原幸次郎氏ざんぶと海にとび込み二十数分荒れ狂ふと闘ひつつ学童を救助し、自らは精魂尽き果てて海中に没す。



＜碑の殉職市原幸次郎氏＞ 写真は市原幸次郎氏殉職碑々文

町民こぞりて捜索に当れども空しく、遂に帰らず。船三十有八君春秋に富み一家の柱石たり。しかるに幼き三児を残し人命救助の人柱となる。市原家は云はずもがな、人々の驚愕悲歎たとふべくもあらず、唯無常の風に涙をしぼるのみ。

君は大正十一年七月四日市原喜一氏の嫡子として生を享け、長ずるに及び県立浜田高等学校に学び、第二次世界大戦勃発し風雲急を告ぐるや現役志願兵となり、中国大陸戦の広野に転戦すること四年、その間戦車隊となり幾多の激戦に遭遇し、死線を突破すること二十数回、昭和二十年八月十五日部隊長より輝く殊勲を認められる。復員後傷痍軍人の身にもひるまず一家の隆昌をはかり又青年団、消防団等の発展に寄与す衆望止みがたく推されて第六代会長となり、日夜子どもの教育に全力を尽し着々その成果を挙ぐ。その高潔なる人格と不撓不屈の魂は、人をして感動せしめずんばやまざるの概あり。

ああ尊し、茲に君の犠牲的精神を永く後世に留めんと天地に向かい祈願するも、うたた悔恨の情尽きず。松は緑砂白き九十九里に氏の御たまよ、永へに子らの守神となられよ。

昭和三十六年一月

白浜小学校長 及川志朗撰文
題額 千葉県知事 柴田等 光中学校長 佐瀬 武謹書

こどもらの心に生きる

故市原幸次郎氏の殉職碑建立成る

こどもの水難を救い、自己の生命を犠牲にされた、白浜PTA会長故市原幸次郎氏の殉職碑建立のため、遺徳を顕彰するとともに、白浜PTAの氏の尊い犠牲と、遺族の心にのこされたこどもらの心に生きる碑の建立によって、氏の殉職直後から計画されて来た。PTA役員の手によって、去る六月二十八日盛大な除幕式が挙行され、遺児博道さんが除幕されたあと、参列者一同は除幕された碑に、参列者一同は除幕された碑に、各位の絶大な御努力と関係団体や個人の深い理解と協力諸を得て去る六月二十八日協賛者多数参列のもと、遺児博道さんが除幕されたあと